

大神楽単独全勝

紙相撲新聞

第162回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

大神楽鬼ヶ嶽2強の様相 千代鈴はまたも磯自慢に苦杯

〔第百六十二回本場所八日～九日目〕

7月7日七夕の日に八日目と九日目が開催された。

九日目を終え、大関大神楽が八日目の小結鬼ヶ嶽の一番、九日目の若ノ嶋戦に勝って全勝を守り、ただ一人9戦全勝として優勝争いの単独トップに立った。

これを新入幕で幕尻の西勢ノ里が1敗で、小結鬼ヶ嶽、平幕夢ノ花、白閃光の3力士が2敗で追う展開となり、優勝争いはこの5力士に絞られた。



↑今場所の優勝を占う大一番、大関大神楽と小結鬼ヶ嶽の全勝対決。勝った方が優勝に大きく近づくだけに共に負けられない一番だったが、予想を超えて大神楽が圧勝。貫禄を示した。

↓九日目も大神楽の勢いは止まらず。勝ち越して復活をアピールしたい横綱若ノ嶋を先手を許しながらも落ち着いて捌き、9連勝とした。



若ノ嶋は八日目に勝ち越しを賭けたが、脇四ノ嶋との一番に敗れ、優勝争いから脱落した。

「7日間で一番安定した相撲を取っているのが大神楽だな」と朝日松理事長に言わしめた大関大神楽はここまで7戦全勝。

その大神楽が一番恐れる相手が、今場所2横綱1大関を破って大神楽とともに7戦全勝と絶対調の小結鬼ヶ嶽。その2人が対戦する取組が八日目に組まれた。

「今場所の鬼はひと味もふた味も違うからなあ」と磯ノ海親方。大神楽としては、今場所は是非でも優勝して悲願の横綱昇進を果たすのだと臨んでおり、この一番は大きな山場。

一方の鬼ヶ嶽は、かつて横綱まであと一歩というところまでいったが、師匠の不幸もあって、その後は十両まで陥落。

そこから奮起して再び三役に返り咲き、今場所がかつての相撲に戻ったかのような強さをみせている。

大神楽はこの一番に勝っても残り3日は横綱大関戦が控えている山場が続くが、鬼ヶ嶽がもし勝つようなことがあると、このまま走るとも考えられる。

館内の親方衆が固唾を飲んで見守る中、軍配が返ると、大神楽が鬼ヶ嶽のど輪を許さず得意の左を差してあっさり切り切った。

「よっしゃ」と歓喜の声を上げる磯ノ海親方。大相撲を期待したが、意外にも勝負はあっけなく決まった。

続く九日目の大神楽の相手は横綱若ノ嶋。両者の対戦は若ノ嶋が劇的な優勝を飾った第158回以来。

- 全勝 大神楽
- 一敗 西勢ノ里
- 二敗 鬼ヶ嶽、夢ノ花、白閃光

注目的一项是若ノ嶋。立ち回りが上手で、押し込み優勢。大神楽は左に回りながらこれを何とか残す。

もう少しで大神楽が土俵を割るかと思われたが、うまく左を差すとすくうようにして若ノ嶋を寄り切った。



四季嶋○(寄り切り)●若ノ嶋

両者の熱戦に対して「いやあ、大相撲だった!」「いい相撲だった!」との声が上がった。これで大神楽が9戦全勝として、優勝と横綱昇進に大きく前進した。

新入幕で幕尻ながら、6勝1敗と優勝争いに加わっている西勢ノ里。八日目は実力者の喜乃郷との一番だったが、これを寄り切りに破ると、九日目は初の三役挑戦で鬼ヶ嶽との対戦



喜乃郷●(寄り切り)○西勢里



鬼ヶ嶽●(寄り切り)○西勢里

誰かが鬼ヶ嶽の勝利を確信していたが、勝利したのは西勢ノ里。これで8勝1敗として、優勝争いで全勝の位置に近づいた。

横綱千代鈴は七日目に磯自慢の上手投げに敗れて2敗。優勝争いに絡められ、この一番に勝たない。ところが八日目に、網乃花に左を差して連敗を喫し、優勝争いから脱落となった。



千代鈴●(寄り切り)○網乃花